孝知久保物語

冬

內閣文庫
岡田眞之藏書

かくてやうく中納言はもくなる竹人は大將殿いとをしくおぼし
なげきてさぶらふなりとあるをつせさを竹人は中納言なるべいはれ
もふらともはるゝ〇八月をしくもはるゝわるゝしくなるべいはを
きせ竹をとりたてふよそるやうなり竹人は狂しぬへきなるまま
ちもしいまてあるそやと思ふハ亦とをりそ時日くゝのわら
人ともよあはしちそうまてなりおとりつるたんちもの思ひ
るる亦君の竹をもりかへるそふ告せよいうちつゝのわるハな
るわと思ひぬるまゝ又かくもぬきハ亦君の大納言のたるまし
すはるゝてさそ者うれとさいまのるゝあるはるはゆきとさて
ハおいまそしうるまてのたはゝるまるまるる人よる
わるしと竹をふを大將少竹てあをまるはゆきとうよる

なし如是やかて大納言殿の御乳人なし申てわらはなし
しと思召せ申人とのゝ給ふを少給ひてうちせそやとたはぶせと
かきりの大納言なる人ちとはかりし人うちとるへきを
あしき家を心ちとの人のつまてちかたとのゝ由もとうきて
給ひてかくなん思ひ給へるとさきもとおもはすく行きとそ
きのとくをとうに後へ引きあへはきこえわしはぬかそりはい
けうとなんなる人と思ひ給へるこゝろしよろしうこめさせ給
へとうせ給ふなるかいさるをうちへよやうはやうし
申せよ大納言はなくてもあしくもわしくあらなるせれ
きいとおぼして給へる人はかりなるなくよろひ給てそう
申せ給ひて中納言なりの給ふせんしうし給つ色を少て

大納言わつらふらちなくよろひ給ふあやかくよろ
ちうき給ふくなる人とそゆよろひまはまちてくわん
たてまちやうちうは給へ給へとくもくわんたてさま
うにまちしたうてうて思ひつりもはいてうち入るへは日と
せとかくせうえ人よりとあてはたちふとも赤子とも七人わきと
かくうんせうやうきしまめ見せつるかてうるかてうる仏
仏紙きらしもたかなりうんはあるうあるうなるめとめん
とてうをあてられ子二人むうりたうきとかるかてうそ
はあるうめきあてえうまちはかよてちをつきうり後はち
てうはかうてうるちのなきとはかへてとかくうはなくこ
はかへてはうかしまうちしてわきうなはかりわうはをうち

[illegible]
[illegible]
さてさて男女共に[illegible]
[illegible]
[illegible]

ようしたるこころをし人くるまよなんよろしよものこと
ちろいこんるにちをけるとしたろかへるをとれんるへと見へと
いとさかしうるけるとき人たちいちとわるとたほしたりさか
あしふるてちをあめきとひろうよろしまふなりとて大将殿の
小かかくよをを笠へ小ろ小ゆてなまぬの竹ふちとくもいさしの
竹ぬへうきと又いかくうくやくるこんとしろわのうまわひ
そひまりてさせもたるこそはたのくまるほるを
まうたりつるともも人もるるなとしふくとたうきたるも
さこんるともとちをあまるけうるるちとなるるまとておほしき
てめまの人はれるいもるさいるひなる我なんなるこんとまいか
しもんとは見ひなるたれ後まれいまりてはしは家はえるるるとも

いとくあるたん男君もいとこはもしうみりはろはもるけ
竹てんこ条もさるかりたるのやうのほるるそをまるるるいとよし
をんるるれまてはをとるる君子ともはまかくしきえんもしるもな
かるるよしをきはそひもていふはとともかくても有なんれるかるから
るふるめはるとしはるるるるとてうせるきんをりはいほるるか
わるんとるるれれほるるのたてとるやはいとたるるなくもるれの竹ひ
そとそひてるそなけはれてるるるもるるるはわるるるとと
うるるしくるるはせめそなくともるるれほるるもたち竹そし年
ちろはそるるるるるるとも我君竹人たるもつるるるはるそんるち
せんるるるわるるりとりそんてはるうるはれ三条の家はわの
人かはほんをるうかるは市るるうなりたれ将後も見竹ふはるるし

まゐくしよものえをもてをれいとかひなまもりとれはをへし
てをりをりをりともちていをりをりしくふわをともをりぬをなう
ゑをくゐをもりないをせゐをいとをりしとりゐへいかりを又うちいり
きとをりともわりてをりて又いをりをりを大将後りかりをりゐをりていと
をしくわをりきよおほしてかりかくをりゐをりをりゐをりをりをりとわを
なわりをりをりたりなりもかりもなりたりひそをりをりをりをりをりをせ
ゐをりをりをりをりをり

もりかりかりハ世ちろ世事ある人よやうの世さてもこいかく、
ア角なんとし竹ろれとちむとくわてしまみかとろ力竹てほと
なくなかくとわしんいと後ハいとわしかる後しとせちよの竹ふ女君
もをそなま人くちるもむ人んいもろいくなとちるゆくしかし
らあれまたろんよとろさ人むちせ後ハいとうしろめてなしな居
竹ぬとゆえ竹ひろまハ家世とろるよなもぬひとりちくて君
たちうちなかめわそまして さうくしくわほるるかくとくうせ
竹めるをア竹ふつそしよくそ思ふちと我いそまてるとむほ
世かろ後よハ世いくなよひとそ言といふるおさあまり竹ふ右将
後ろ世むろるよ比位ゆ位いとむほくわゆくほよたるろるけよ
ろ竹ひしやうるちろさいもひかよまなしといふ世いくろほと

ハたまもしくまいなしぬやろくしかよようつを竹てを人後よたい
とろくちいとれゆくちゆまりち好後むをせぬ日なしたちなかく
たいめんを竹ほくち人よやうなと竹ゆえ竹ふ女君ろ世ふくろいとらよ
ようしろ宇ようちくしわをくく竹人ハをとち
君うちなまて

なみてこの家後さ人おちひてきくかたもとちふちと君えろ後

と申さく人ハ女

神ろ古後ろ川ろふかれいふちれ衣といふ名わ利ある
なとゆえ竹ひほくゆるふまわるよ竹ふほとる二十日ろ世いくえ
てめきハいアハかしちるわるわ竹孫子ともちひゆとろ竹人ハかいく
くくもわくく後世ハ十九日ろてくわてんとろ竹人ハちくるよ人よる

はれもしらるもかなくて世界九日ばかりぬ世後までなんをうれ
ちてこゝらをもらとゝ世ゝてなれハとて内将後いとゝかゝしうれはて
竹ゝり子ともわきもしくとほとくしまもてゝかひてもてゝひられいと
まうふきゝらくちまほふしまなんをうゝとゝて内将後いまハ
ハさ竹人ほやまもそらむとゝの竹人ハうしかゝにいまハかゝそもかゝれ
らとゝれの竹ひそわちきさりゝうとゝ少竹ゝて思ひつゝむらとゝいてまな
んかしなま人の世かちりのハよろしうかはうれましかれとゝ世ゝ思ゝ
ぬとの竹人ハさゝゝらと女君ゝちゝもゝの世ゝハとひたまゝぬめと
の竹の紙おちかゝゝ竹ふときゝてかゝれとゝのれとてそう
ふんしあつま竹ひしもゝともふくゝうちやうゝんとわいてた
て糸ゝまてわやしうゝへきともむうし人のゝひれよ竹ゝしかハ

なんとそまゝ竹人ハちかゝとの君竹ひのきハれひゝり紙とのハ
とゝせしなりハまひとりハさゝかのわしさゝのゝんちのゝと
なん者のゝ方好屋のしうハわゝぬふくをちそハまやうし竹ゝれ
世ゝハなとかの君ゝちかのゝかゝのハまり竹ハさわしゝとれ
のわゝかとの竹人ハ女君ゝもなしゝちハかうひさしうとしちの世
ゝ竹へまハえし小のゝままて人となん君ふとの竹人ハいとまら
とゝまハ君竹ゝのともれのまハかゝしなんれうゝみのゝかとも
わゝゝんとうちかゝひ竹てゝちのうまひよせてゝ
ゝ紙ゝ弓社ゝとゝもハをゝんなといとゝかゝちまハ尺少紙ゝうけと
わゝゝハしかのゝてわゝかとうちわゝひ竹人ハかゝゝさゝまさも作ゝ
もとれれを竹ひしとまゝれをれまあゝゝ者てゝるなゝとゝ中

せハさるかしうもを竹ひろまるれちうたまもくちろつよ竹めう
をなりしよかハとちろころ竹めまハなんかうをちる竹人しはたひ
二ハをもんろちけとせちることひとつほくろろなることちろ券と
れひ赤とりとろめつるむけるさうしれよ竹ん市ハ人ろかひなまやう
なまハとなんろ竹人ハ鉄ちせいとろひんなることりかろをれよ
竹ろぬちとなりもも反ろたんをろしめろ人しいたんやさろう赤
かくをれくなとソひれよ竹ろしたうひてハたまもくられちし
つわろまを竹ろめるもろをとてとろ(ハちめわやしくもいるる
なろかろれハかろろまもれかハちせわろめかくる竹人ハらろえ竹
ふれれしちとはをハれろまあろんかるまハさてもろをて人う
ちはろよをろれよ人くあまハたろもしかうてをやうはの毛

なんろかハちくなるやうるもろし竹なる残れろまいうろ牛
ちろをちるんと毛ふれろ毛ろもれる竹ちんよれ人殺れよいま
ふろてをちろハ市男たちをんつをそつうまろ人よとろ竹人宮
ちせんろのろかしちろまちろかくなんともろし竹ろんとて
たてハもしかへしなをもを竹ろんをりてもろを竹ろなるむいかしをなし
ちををろくく人ハとの竹ふわひハなるかくて人よ竹をせつうをせ竹人と
ト竹人ハいまをうなろんをりハもろせんうとよ人たちをしわろ
ハをてちひてとろせ竹ふかくかろをまをろるかうくなんろ竹人ら
と人ハかろをれ毛ハををしかろるろいとうをしくろ竹人ハなは
わをハとろやうしかろろくとうをと毛ろるいとれろうをれハ
おちろをはろ毛ろかくを竹ふかわれうをしといろを越あをたら

そこたちまちそこたちまきてつまそこしよしてうしろかはおそもあい
さまくハいとをしくそうかしよちとの有そこるおもてゝまら
ちゐ人ろいつへよちとめまろをゝほてなし竹をんと
もろしとあほしそこねとハいかそありまちをかくてうせそこまき竹ひ
しりかへてかく祈んちろるかへそちら竹ふ出とくをてるかりゝてか
くろ竹ふまして也かしいかなそさまる人きてもわうくもも祈そる
をしやはちそほなそこほとろ竹ふと人ハ小ろかゝなそもかアとそ
あハそゆはとくハちくなまハせしよら祈あまとりろしてはちく
ほといつてゝんなまかひかたくんと人ハ紙ちるあそれろ出らや
もろ男ひしそ竹そぬ祈かしとくいそちと出ゝそちら祈さしあゝをて
そそはほちくめを文た歩つ竹そなりたくハたまろも竹ふしあ

かけそくハちろとろくいしこあてもゝいせした。そし祈ハかそ
もそ竹へ又をろちも人くをくなそ人ちとハせそちろ出とくまろハ
（し竹そぬそ出ふそやうし竹ハましかハいつちるひよつよてあをアし
ろてくあほしあそせよめうそ人なそちとくもとそ乃まハうまきしく
あそまるのあほそ竹そんほやあるかけそくもくこをとそあてとく
なよよしあゝ祈とめをまつ男ろとてえまほ竹ふそもえまそア
しよハふちくしろくちるよそかしたろ祈うくたゝ人るともたよかく
おろかるてつくちるぬ出ま才ハかくあちまなる出ちそ人をなくく
ちそくそちるちひゆそ竹そめをとそるかくよいひちゝ出ちまハ宝ゝと思
ひていゝ人せそ出ちろへまハかゝゆゝ人ゝと人ちハさ約人ハひかくちたあと
かしかアしう人ハきてゝそしをとちとちるもろくんちるちたゝん

人にしらかりてゆせかしとゝ人をかゝ人うたあるやうもあるに
ゆきたためうらとなりこれうらをまゝ人をもいうもつのうま
はゝんとたれ反うく笠入小はかりはらはらよりもたかひ竹をもて
ひとりをかりはらはらかくやハわうとあめきハかくらうは
かうまはれ笠あるとゝうろいうるらうしわうをたゝんたゝうをう
ハとしよりよりつ手たるいてくゝきたるはいまひとりハちちうて
たゝうをくもうもうもあるゝよりあるはは手うゝはゝえ笠入るハ二百
ろうもはいてくなりかくとるくあしきハかけちうあちをを
たゝなりといゝしくさいなゝくゝれとたきもくにたくのうれよ
笠ひしをゝれゝ笠てかくやハうう笠ふへはたくちきをてあるせるう
てなくかくゝをるかゝ入よ人たるかゝはらをも笠入くとゝ入を

ふかるくあれかしかゝしいてくゝれひしつめをたをもくゝれ
ろうしゝれいいあるうらをあしあといふほとをたをつう作ゝきあ
ひてらるもあるはるあるをくちうしゝれいよき人ハかちをよみさ
ほよをあしゝれあるもまつ笠ぬちくあもをしほとハきいまり
笠ひしかいさうかう笠入るうちとゆをゝをかしかくらうしよ出とし
うをゝひしもあるをきるるるてらやをうかなりとうをハみそかよ
ゆを笠めりしかとう笠入ハ十うをふいかそわきをんんよくゝあしよもう
よう笠入うゝもあゝんとうくまるあれかしちよしくゆをゝさ
せしをそうをうなうのひつよてたてハさをあるよやいちゆをゆ出ゆす
ゆせををゝ笠入ハきゝいまをぬやうをいぬうを笠出なをあく
あしよたうもちをはうんいそ出らをうなを人かゝんとハうを

をやれをんわきまへたるものもちまなりとゝひて世かへりうとい
もろともこゝひあはせてちゝ母へゆゑ分かしちゝとてうけ分をもぬ
ちゝもいとハ夜ひとりをなんたかもしよもろハ男ひゆえさ
まへ分をせてゝ不くゝの巻ハわうよ人もうし人ゝ古不力ゝ
かをんハいそかとつゝ作ゝをはらしゝろかひなまやうゝ
とてゝゝをん分をゝとめはゝはとゝ市ゝハとゝ人ふか
うをゝめゝし不我あゝゝもゝせゝ分をゝもゝしゝ
なよ世かけゝもとハとをしくゝゝをゝと巻なほかせいぬとてかへし
をゝゝゝをもゝをゝゝ我をゝゝをとりてたちゝれハかゝをかへ
しをゝゝゝあゝんとハとあゝしゝてそれハなともていくゝ分
ゝんもゝゝをもてゝゝくゝとをんゝかへしゝれハあれものゝ我

しゝ手ハもゝをとゝかゝもハいゝあれとをゝゝゝゝ古ゝとゝ
ゝ分ひてゝ我人ゝもゝとゝハかゝゝゝ我ゝもゝしゝとも男ひ分をゝ小ゝ
かゝゝ世ゝかゝゝゝハゝとしてのゝゝハ二ゝゝゝ男ゝゝゝ分をゝ
なしゝとをゝあゝたゝ人をとてゝれわゝゝ分日ぬ女男ハいゝ又
もゝあゝゝん加しゝゝもわゝゝ分人ゝゝのゝ世かゝゝゝハ男ゝ
小ゝをゝゝ我ハゝをゝハゝをゝゝもゝまゝゝめなゝゝゝもゝ世ほゝうな
かゝゝゝゝ分ゝゝゝをゝおほしたゝんをゝゝゝなんゝまゝしかゝゝよ
なゝゝあゝれゝかゝゝゝひゝ世よ分ひてなんゝゝゝしゝゝゝる世とゝ
ゝゝ世ゝしゝゝよゝゝもをゝしゝよゝゝゝゝハ日ゝゝゝゝゝたゝゝゝ返男
たゝゝもゝめゝゝゝゝハ小ゝかゝゝゝゝと抜中ゝゝゝゝゝも
ゝゝひゝゝ分人ハ小ゝゝゝゝゝわゝこゝも男女ゝゝきゝとゝゝゝゝハ世

去りなるものわうあもるかれためきるいとあるかしとやう
く思ひなるほどとしかへるぬつるあしよ右方後方はち
よ右將後方方はなりの竹ぬつよくりの出をとうともなりあ
竹人とひとかうの人をかまいくるあひなるまいかはち方後方ふ
時かるうの出さいまひと人くしも出そるたちもそるうやしや
むはかるあれ出をとるうの方ぬ弁いとまつしそるるるうそ
アしとかるまるまてりれいるるよいるりなし竹つるちせん
うるちとしなんかるれと國かるといとくなしたるるまハ
ひまたてくやそるりるるなしぬたるるうるあハ小將るなり。
ぬたまもくるうの出とくまそとありるるかるまるひまるも
るまるハ出とくふるぬのるりハなるくちるよるかせてもるれる

竹そとと人ハるるるとるりとひてるり出てひるつるるあしハるり
出そうるるまるひなりるりと人よるいるかくるるまるのせし竹人ハ
ちるむとくるせんとおほるるるるるるるるるるるるるるるるるあ
しかりなんなし竹そとあるるるとハせアほしとおほしなかるるる竹ハ
るあるの出るるいなとあるるるるるも出後ふてるひとるるるるるるア
竹るるとハえるる竹そハあるるねハつるるあしるる竹るるもかるるなる
ぬもるるるるる出とくるるるなりるる出あるるる出をるるるるかるる
なくあるしたる出ふハ方方出るあるる出るるるハかるるるるくかしこ
くるしるあるて時竹るんるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
ちるむとるるるるるなし出るるるるとン人るるるるるるるるるるるるるる
けなくおそるしよもるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

そ人まハそ〻る世の人もかくてをはいぬるハたゝ此月
ゆそはかうまつるめそきをたゞはいとめもよしとあはしたると
てまろしもろのそ〻ろ〻ハあるつうゝ人はらぬなるれハこ
なるなかまてかいとをかしけれ（はるかの君）をはいとゝかうもむ人ハ
るれむ者さ人くいかめしうし給ふ人なるうちまはようねか
よなしむ人〻てゝしくして給ひかくゝるしくさゝるとハ
ゝるまは給ふゝとあきハなるゝかくゝるそあるぬちとれくよく
つうまるきおろかなめとよかハさゝるかへゝらしと給ふかし
ゝるゝうきしくてめそたよ如かゝなりと思ひてかゝくなんろ
たゝふなとまあてゝかゝるゝつうろまとゞ給ハゝとくゝ
かゝるゝ人ハゆろもいとうきしとをは

したるいゝハかゝて三位の君あるよる人あるせんと人ゝまゝ君
さゝ人ゝまゝ人なまゝ君ゝちをしくれとろ給ひるゝかる三位ろ
君ゝ髮ゝ市そ市もろなと世ゝるゝはゝ給ひし
ゝもゝるゝそいと少ゝるゝゝ人ゝゝるまるゝはをゝり
給ふもとなまゝとゝし市ふゝゝ市ゝゝ給ふゝゝゝいとゝな
くてかゝ給ひしめの男君十ゝそいとをはるゝをまハあはゝ人
ゝゝもあゝまゝ君ゝゝかゝ給ひしゝをはゝまハ妻ゝろ反上せゝ
せ給ふゝゝゝゝ給ふゝもゝゝゝゝ

ゆとりやしなきまき竹男ハ九よなんたもしるる時兄君の反上し
竹ゆをうゑやアしけるおほして有うちよいかそアるゝんと中竹ハ
おとゝうゝしかりてなとゝおいまゝていまきりつゝとてゝまゝよ
てんちやうせきを竹人ハちゝおとゝいとゝきなく作るものゝとゝ中竹
となるゝおそゝたゝ命よハアきりてかしちくなんゝあゝとゝまきり
なゝとう竹人ハちゝおとゝわゝひ竹ひぬうちよアゝりてそうし竹ちまき
なんおよれのかゝまゝなくかれしと思ひ作るおほしめしてかへゝま
せきを竹人ゝわゝれゝまゝよゝおほしてせつる残えゝまゝもゝゝ
アゝゝんとゝ人てけるとゝ命よハせゝを竹人へとつ和よ神竹ひて由ゝ
もおとゝゝ時とゝなんつゝ多竹人ゝまゝる時をゝとゝとゝ如君ハよ
ていゝしうゝをゝしゝよなんおゝゝしゝれいまゝりゝゝなくかゝ

しつよ竹ゝ竹ゝ竹ゝ由おとゝとゝもゝゝおひとゝもゝなんおゝゝしゝる
又けゝゝうゝく竹ゝ竹ゝ竹ゝしかゝゝまゝよおゝゝゝ思ひ竹ゝ竹人ゝ竹
ゝとゝゝまゝおほおよゝゝゝしなんゝゝすゝゝゝ竹ひゝまき竹ハゝゝ
おほいとゝゝ竹竹ゝすつゝゝゝまゝ竹ゝゝゝゝゝゝいとゝゝたゝゝ
竹竹ゝ竹人し年ハけゝゝとゝゝゝせゝをゝゝ竹ゝゝゝゝゝゝゝをゝし
く二ゝなゝゝ年竹ひゝまきハおほゝゝおとゝゝなゝゝ残おゝしてなん
ゝまゝ竹ゝゝゝかくゝまゝ人よゝゝとハゝゝゝゝゝゝいかゝしゝゝ竹人と由とく
ハハゝまゝゝりなゝゝゝかなくゝて月日ゝゝよゝて如君ゝふくゝゝよ竹ゝハゝまゝ
しくゝゝとゝもゝひゝゝゝゝゝゝほゝゝゝゝゝゝゝ

よもむとりせんとれほしてそうなまとわほしわ
たるほとよれほやあれえるひして中納るうはくし法そちて
くるかるもるめうせくめるとき分そ人かるもいとよ人な
るとあほしまして　うちよ子るまわひたるもらとめそかるひ
分てさ〻へよをわるるとうるるとほるめかし分ひるれいよまち
とるる人なりとやちるるてるわたるおいあ小るるよ分ふ
るかく〻る人をなんひちきりたるるんたちめよも首人かるしと
よしとなん見ふ二るるるやあるん人より考るよわる考へよいは
きよかと法分人ハ小るオいさ市るるさるめ分人ろつハ比る考ることなん
見ふいとるとしよ事あるるしかハ見ひもなほし分ハかりとる分人ハ比
はるもるるるるるぬ〻まるれるるとるして人小るかるるるまるる人

よろしう見ひたるハるるるてあるせんとるる子人いふるるてハハるる
長くるともかくんるるわるわるるるんとるる生ハ示せしめるるまる
かるるよくるしるる分人なるるるはるめておるを小るるよん分
てるるるるる分るるるるわるわるるるんと見へるるしたるるを
首てなんかるくるるる分ハいうなるるへまるるるかるんらるるくる
ハあるるとひとり首女るは見ひるはるるるるるるもあるるる人ハとよ
る人なめるたるるるるるるるるるるハるるるるるるるかへ
まりてるるかくるせんとる分めるるるるるるるるるるるるるるるる作
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
なんるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

いとしうよまちとなりたいかなる人なりともたくいアはとよのちは
まゐりて出むるあつかうてうしてはしてせんをおろかなるハおもハ
しわもしろうちはるいとうるひなくわうもきたるうきたるきたひしもうき
してもちかうしたへとうおほしたるなめるとしハはすうるんん
百ちれとうおもしてもしめてもたへともかわはもえしたもし
あやこうてあてきよとうアかうさうよいたくよろしうなるん
とわはしたるかまうなくうきしよちとまやう はかうあるかう夜よ
アあうセたへとうたへハかうあるうるなあるんあうとるかくてうくあをう
しろめうたしたうまうるらうたうよかうんをうれとられるひうる
ようましてかんたちめもわたりいとくうきしようたうるかく
うはかうようしろくうかわうきとうんハうはもかうをいうしうれ

もひはるたへふあまうはまうアてハうたれとはえうはけもわうまう
をれはるさハちかうをうはれ君うち成男うもかもれもはせとうはア
たへハいうしよさうをひれうしうるかはなうぬかけうをうたうよハ
うアはしをうははしくなんあうたはかうん夜ハうたへてかうをよまはる
まあハなしとれはしたうをうちるをうをたへたもしまはハうかあうん女
房たちきまけなうをうたうをうきうもめえいまたへをはなうも
あうはよもかきうとうてアあうてたへうをんなうう男よるうきたへう
たあしようハうかふうあうてをしまうん人しなといひていハうかうたへうさ
うしうをうきてせまうたへとうたへハはうたうをわううて たへとよんうわうし
たうをふうオかうくううちうとたへんかうれはいとうくうたへうたへなうをは
ちうよんうあうはしたうしはうオとうたへうはうはなんうきしく

ゐるをいかゝわぼうさと法皇人はゐるゐもてあがあていとまゐらとゐ
ゐるゐまとかゐ法才とゐらぬさゐるゐなそゐさゐるとかゐ法才人よ
人のわぼうんもかりいかゐとゐくゐ法ゐちなゐんいとゐゐゐしかゐんい
うよ才なまいわゐゐゐなんと思へとわゐゐせんかゐゐゐ法ゐ者いうかゐ
ゐゐゐゐゐるゐゐゐゐつゐゐゐ法ゐるゐゐ法ゐてなんいまゐてたゐゐ
ゐゐとゐなゐよ法ひぬ者ゐ思ひしゐゐ法ゐ人よゐゐゐしゐゐもなゐ法ゐ法ゐ
なゐゐゐ法ゐんそ人もかくもわゐゐゐわと思ゐ人よわゐからゐもゐゐ
かひ法ゐと思ひてゐゐゐゐゐし法ゐとゐ法ゐよゐ法ゐ法ゐ法ゐかゐ法ゐ法ゐん
と人ゐゐゐ者ゐかゐゐなんゐ法ゐとゐゐ者ゐよゐゐゐなんいとゐ者ゐよゐゐゐたゐ
ともかくもゐゐしくわぼゐんかゐゐしなゐ法ゐよとゐ法ゐをゐゐたゐ
ちぬ屋ゐ法ゐゐてゐのゐくなんわゐゐぼゐゐゐとゐ法ゐふゐかゐ

ゐゐ者ゐ法ひゐゐゐゐゐとゐわゐ者ゐ者ゐてゐゐもわぼゐ人よゐゐゐなれと
せゐ者人かゐ法ゐたゐひわぼゐゐなりとわぼゐしなゐ者ゐくとゐ法ゐとゐゐ
ゐゐ法ゐてかゐゐたゐゐゐゐ法ゐゐゐゐゐゐゐゐしゐゐもゐゐゐわぼゐゐゐともゐたゐ
ゐゐんいとゐよ人なりゐゐ月ゐゐゐもゐゐゐ者ゐ法ゐしゐゐなゐしゐゐいとゐく
とゐ法ひゐゐゐ者ゐゐゐゐゐわゐゐし法ゐとゐゐゐよゐ法ゐゐゐゐとわゐよ
ゐゐまゐみ法ゐゐゐ七日いとゐゐゐゐゐまゐゐわぼゐゐゐとゐゐゐゐ人ゐくゐゐゐゐそ
くゐゐゐゐゐしわゐゐまゐたゐんまゐゐゐけゐゐもゐゐしゐゐゐゐしゐゐたいゐゐてせんと
わぼゐゐゐゐゐゐゐ者ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ法ゐ者ゐゐゐゐゐゐわゐゐ法ゐとゐゐゐ
え法ゐ人ゐゐゐゐゐといゐゐゐゐし法ゐとぼゐゐゐゐゐなゐ者いとゐゐゐゐもゐゐゐ
くわぼゐゐゐいゐゐゐゐとゐひゐゐゐゐ者ゐひゐゐゐゐゐ祢ゐゐぼゐとゐゐ法ゐともわ
ゐゐゐ法ゐとわゐ者ゐもわゐゐんゐわれひかゐゐしと

とひてわづらふ男二人わづらふ一人はともまかりぬるを
めはなれてをかしけなりいうほうしと思ひたるをこがましく
とてとゝむるといとかなしくうちなきぬたのわほいの後まちうけ給
てたいのんし給てあるへきさまとゝもしり給へとなかくしめりもし
たなくちかしうもほえそ出いへへもとはしく給へはしかる事
ろこのれとゝそ世のなんれたるしるむもしろのちろはナにて
むとりてあまてうゝ給へをゝはしかるはかまハサハまなんれたるしる
三ヒのあ給ほとゝは男をとゝそりかしつよ給ふとかまなしせ
日よりてゝしの為よあもろともよわるゝ給日ぬ市ともろ人
くなへゝろふさうそく一ゝほゝ給ふ人きゝかゝまとて赤市人
わゝふ一人をとれ二人あもほの人二人とわゝし給ふさうそくとも

あゝひたるよ一ひいとあやしきもとゝもらかゝたち
たゝちよなんよゝうきゆくてゝ入いそよ給せうとゝ人おるか
ぎしけなくうきしと思ふあゝうちつけてそちハ海しゝる少好
ちゝ入してみちひよ入りにの男人もいふかひなくもわゝにけ海しか
くいゝりてを給へかなあしかりゝとおもひなしてなんいて給ゝる
てあゝわ宮ひなとゝを給しゝなれハうきしと思ひたゝ給ゝ
給ゝんゝとハきか林ハかゝにわゝぬまハいて給ひぬふゝをいうよ思給ゝ
むとなよ給へふゝたひくやら移とゝなよたゝひなんあるよも
れろうももしかゝけるゝあハぬゝしまをゝゝちをかしくも
わゝぬゝとをきまり男をきいゝけさうゝやうゝふハわひいゝきゆ
えしれもひいてゝとをくゝゆえしかとみそあをまゝてしはちなん

なほさうなやうなるしかたとくべしかまうれはゆるせとか
しなとかてしひ笠そ二百なかられまてらなしてまたしぬにの
男子こそのうちに孫笠入をいかるれは笠入とたてらし笠ほとこそ
ちはふくもてきてこそ男子とも笠てまいるはうしほしられとか
くさんとあはるもともおまてふんとてなんうちのハかなられをせ
笠入とてあてかちちまさし入笠入ハかるまとりてをる笠入とふと
しもとり笠ちはさハよくる笠ちんとてひまあ多笠ふにの男かりハ
しめのあもしかりられかまいてしたりしふるとるかまと又さもや
あるんとむひつふきてるかまとよくる笠ふるときけハ
わるるとるあそそかるるるかまるとハるふ男ふ彩るさそれ
いりるるよ意かるとるん首るる市ふるるやゆる笠入とあきといるんもし

笠ちはれとくそかるあくもあるしとせあての笠入ハなるまるゆるくしうた
ほるるんとそさしいるし笠入まきハいるるかまそ入たあるハとて市かへる
笠入とて又さし入笠ふるやくとるるるかるるるとあ笠ふにの男也
るもはる男ふ笠つへうれるといとるるりかしくてえとるるかよ笠ちはあ
なるくしるやくとる笠入ハもかもわほるそかく
あなるるぬ意かるもわほるくわるそ海の浦はるるるハとるつまるん
とてひまむるかるひているし笠入まきハたとくあれゆるしのわるふるるの
あるるハるそやるぬるあるにるをしかるまとそひか笠入るるるアハとるかし
ほるひまおかつけさせ笠ふそちハはサハ日るなんゆるるる入まる日とる
たるるるまきハあるちるさるるハとちかしかくてたのちに日るハ二百の数
はちるとハまるるめたるるやうるまうけ笠入るる入ハたるかしはまいた

たゝ一人男はらからしもかゝるもうとゝいとさしはらとおもひ
て思ひたるさまあるとちいまき竹ふたゝそさとたしめらてゝまと
なれハわかなる人いとそしとる竹人ハ女君首をとゝもしめ竹ひし
うとゝ思ひあゝまきていうよはもほしうんわちよハいらうよめハ尼ゆしと
わもほしていかゝまゝ尼もしめ竹ひしおそもやんちとなくゝく
れもほしてそわうんとゝ竹人ハとゝいとゝくほゝるゝさそそゝちと
そとゝ竹ひてちゝうゝよりてかゝうれちゝほとゝひたてゝまてさだゝまき
竹ひしおゝちをいゝゝしまゝさしハとゝれゝしかおゝ思ひふしたゝまし
ほかゝゝれうゝひたゝかれちまかてゝよいゝゝハてゝうしふせてゝう
ちゝハよゝゝちひまとゝもゝあゝ尼ゝ竹へゝゝまゝとなんゝ思ひしかハにゝ君
ゝうとゝもかくゝちゝ我ゝ小ゝ子ハうまゝしとゝ思ひたゝりゝかけゝゝゝなと

ハ思ひもたゝあゝたなとゝゝ竹人ハ女君かしゝもうまゝしゝゝ竹ゝと
まにほかめゝとゝゝ竹ふゝまきぬまハそちいまゝしぬ佐ともゝ人くゝよ
もはうけさせ竹ふさやうなとせさせ竹ふれゝどゝりハひたけつゝ
なんあゝもはくゝしくさゝけよめやゝしおもしろゝゝゝとひ
とりゝゝよいふ人よあゝほそちれいふゝかりてゝるへよほといとちかし
ちゝゝ山へよゝゝもゝいとあゝほかゝゝとわくゝまハまゝ尼ゝゝまハ尼ゝる
よとゝゝゝりてなんあゝしよよかしゝゝよ人もなゝしわくゝり竹ひねまき
ゝゝゝんとゝそん人ゝゝしあゝはめて日ハたゝ十ゝ日ゝゝゝんわゝと
ゝ竹人ハ女君とほうなゝゝあゝよたゝもしよ人くゝとれゝよまりてハかゝ
てとゝ竹人ハそちゝゝハひとりゝとうまゝゝゝれゝたゝかくゝ二百ゝ
竹てやゝ竹ひなんゝ思ひれほゝしゝとうちわゝひ竹ふゝ尼ゝいとゝ思ひ

かなり世をとうちかくちハをわしけなあるちくろいかくあるんとわ
うたをひうれとかくあるむちとなる人ろわきとし分へるるるふの
ちくるて人よるちうをよるわるほとをひてもろんよなるるともを分
（とそるるかるむうるきハけしうハわるぬむちとりいとるうむうる
ハとわるひ分て出おくるさる人よ人くむつるしよ出せんよハさしそへ
分へるを車ろるしてわるりり分ぬ後より者るるるちいよハなる
しるかいのるんなるといひるきハかるなるるるきとをひてやるを分つ
あそひてわるるよ分へハもとろだるるちいろしかるもるるりか分ふお
れ出ハいうるるん者るちろ出ためあしういるこうもわるるよかれた
たいるろ対ハ人ろ出そるるとそあしたちてわるんかしなるとれろおと
ちいひあへるるもしめれたるるそちの卯ハ接ろるるて八花人よりか

うふるを分ちりてわるるちろるるちるるる

きこくしまちも竹へるちひまをけてぬ殿ん いとをそしかうんうせよ
そうめぬるたちとてすをうりなるとをちはよしいてつうひ竹めを まい
とわらをまをなめを永たのたいとうは法うんよ戸竹てよるなりとの竹ち
わうり竹へと入はかうかういとわたをは見ひてわはとはくゆるしなくはた
やちの見をもうをそをてしてんとをるかうひそうるひそう竹ひてなるこ
ともちは屋おをせんかきりはうえやをくをすしかめ生永ち飛ん人をはを
たかへーち人よちうかうかとなりよたうかなしよちををて永ゑうをと
おなしらよゑ人たうを子ち飛をだうれとはうを人はかるを はをた
ち竹ぬとえそなをしまかはゑひあをせ竹ちひんをはを和戸はうる
まかくさいなむをんいとくをしよとてたちぬうをーとをるひはうる
ち人とをたををちぬをまはおうをそをかくをんを有をるかるたうた

いとはをよををて小うを手をかうくをはをてちひ
しくををまほしくを竹ふとかうをまはかうををちとわうををを和をかめ
をへわをーををを竹へのしおかを飛ちもわうをををを見ひ竹はうをんをふ
ともうし竹をん飛んをかう人よとゑ人はそををもをを人よをちををうはを歩
羅おをりをとそちはををかんわうをは飛ちを和をちとていとを見しをんをはかをを
ををかうををををもはれわうを戸を人をはをもはをををを
をくをなうを飛たををはとかををををはのをうをんちををりをはれて立竹を
へをやうたををはをを人かををちはをを和をををを竹をんをうを
てををうをはをうをうをしをを見ををををんをを生ををうをひてわうかをもむを人
もを竹へをうちはをさを表はをうをちとはをををうをを飛竹ををもををて
ををかを竹をもはひとかををを竹をんをうはををををををとをて小うを方はをを人ををを

竹ゐて者なんとう竹人いかゐいと思ひつゝ思ひやる者そてゝ世
竹しふうましうわゝそほしよ市らうゑ赤れんの形てゝよたゝそ
たゝ竹しふゝ赤ゝもハいふかひなゝきと思ひていとよくゝ竹ゝそてゝわさハ
ゝかもゝし竹ゝんとてとゝ人いくしもゝゝしゝまハ高しと思ひ竹ふゝゝそ
わゝゝあと思ひて如者もれれしゝ平よむゝ者いかそもゝ竹ゝえゝせんと人ハそち
ちゝゝそゝ竹ゝんゝとわ人ゆ人まゝとなゝハとくゝふそゝ竹ゝえ竹人と人ハゆゐ
ゝそてゝゐくゝなんと人ハ如者ゝよゝそたいゝんせむちゝもいと高しくなん
れほゝ竹ゝいそてゐゝゝんとなんきゝふ竹ゝえたゝりしとゝ竹ふそちかし
ゝ人わゝゝゝ竹ゝんふゝ赤かゝひゝんほとゝもゝし竹ゝかためゝなんわ
しかゝ人まをかゝしけなくゝともちゝゝゝわゝゝせ竹人かし人ゆゝハゝ赤ほゝ
ましくゝもれほゝゝあをゝゝゝま人ハかゝりゝんそまゝとひんなかゝるへよゝれ

ま者ゝゝゝかゝゝれよゆゝ竹ゝまんきやゝゝもゝを竹人ゝぶゆとハゝゝあゝゝまかゝり
なゝわたいゝんなくてハいかてかハと思ゝ竹人ハゝゝゝゝめしゝもゝゝくゝゝゝゝゝゝゝと竹ゝん
かしゝゝもハとハゝゝくゝなけかゝるめゝゝとゝ人ハそちゝもゝゝゝゝゝゝこめて
ゝれたゝよわゝしゝまり竹人そちゝゝ人ゝゝゝ者ゝしくなんあゝゝと
ゝ人ハゝゝ者ゝハかくゝなんともゝしゝゝゝんとゝたゝハゝゝ者かゝゝゝくく
ゝくゝゝゝかし竹人とゝ竹人ハゝゝゝ者ゝりゝゝとゝていゝゝゝゝふゝ者
ゝゝゝもとゝまゝてゝゝゝたゝせ竹人ゝれゝゝゝしゝゝゝあゝゝゝゝゝゝかゝ
くゝたゝゝハゝとゝゝゝゝう人ゝ竹人ゝゝかゝゝとゝゝくゝとゝひゝてゝゝゝれよゝ
とゝゝまと人ゝまれゝゝゝゝゝゝゝ者ゝかゝしゝゝゝゝゝ竹ゝひゝしかゝゝいゝゝ
わゝゝもゝれゝゝゝゝゝとゝゝふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝくゝゝゝもゝゝゝゝゝゝゝゝれ竹ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

と思ふとう笑ハいとうるおなしうん有うなとゐはよろしう侍うんとゐ
あるめきハわてうんういそよゐ笑くよゐなうきぬうなまを
いとくとうしよかくし侍かてうよやあうんとう笑ふたうたほいとうわい
ほ笑うとゆてはそなとハわうやうもわうしとたほしよりていとよよ
けよゐたよたう市そ一くまうひめ者の市ゆうなうとうるとちい
さよ人うををまり笑人たひよハわうハなうもわうもうそとて
まり笑ふ小うまようゐうとさうまかいまうなし人ハうくたうる子
よりもうるうとくをうそくうれ部子七人ゐきとゐくちうかを
ゐううひめうるうやハわうもハしたうしめうハうゐ侍なうりう
笑人たうるうを思ひつうるゐまうをなくうきしくも有かれきいよ
をもゐ少よゐうゐもそちとう人けをとまゐうひたうゐまをなく

うきしよなりうりうきゐまハ車うるうしてわうり笑ぬ思う者
いとうきしと思ひてりハうゐうるうゐうかうゐハ思うほと
よ市ほまうをゐしうさうそよていきハまうゐなうていとかれしと
ハほひうきをハかうしてかてうるうましと思ひなんうるうきハまう
子
かよとゐうきんまうゐしよちとう人ハ小うるたうちいとうくう人ハ者
のくハ侍うるハとよちうとなりりまうのうるうハはふよきうもう
かうとゐうしりたうはうとう人ハかくハうくしくうゐう人をなとて首
ハううよ思ひ笑んまうう人をなんなかくハたうたうるうとて首
うの市ゆうるとなんうく笑うう人くハ侍うるくハ市うよりもし
めてたうくゐほしやきうきゐ人しゐ笑ハさうるしかハうるうちもハか
うゐまほしとなんうきしよとう人ハ小うるゐソやくうまうゐ侍とく

をなんをとりかへきたりあんなるをもめくるをり
ふれたるかをもよりもかれしうを分へたるきハ音をくアはらアし
かハをそしもちとこうまめいをてきしとの分へハはるを
ゆをもとわをといをあるかをかるをそちハともろくしく有
さうもよろれハさいへともやんちとなを入るを分へるをハはをを
をるりとよろちふかくていとハをかしいアありともはを二三人まを
りぬいとをれやうれをおぬちきをををるもしたのちいとのをいく
しうをふをりまをかくふくをてうをるをさかうきハ人をなんやを
ををたりちいとをくふりをハ男をよりかうくりちをいて分へをハ月
りサハ百しをんあるはをを分へふそりを國をるを分をんあるをしま
うけ分へとひたきハかくをろちひをふりをかををなをしを彼をり

をををハわきてるむちをりせんとハをひををりつをハ男ハ粉
あるをたをけ分をんをを仏神りをを分をハををををを
武りへくはくをまうけし分をををうををををををををを者
ををたりちいををりをわりをしをちをハかへをアりなんを
ハたきををるをたをんかををハつをうまりをををよをくををんを
をををんへハアりをせををいをを分へきをちきをいををををををを
有ましうあれをををををはををををををををををををを
わををめををををしめをりをんををををををををををををを
しはををれをををる出ををりをんかををををををををををを
やををるをををををりををををををををををををををををを
うちをををまりをんをををををををををををををををををを

一人もとゝ法をとれ三十人わらハ四人もかへ四人なんカそゝる
うるさゝあたりつる日ゝちかうなゝゝみたゝかたちゝれ
わるかわるゝ竹そゝアハわゝきをしくわゝきなゝとをゝ竹ふ
人くゝあゝあはまりてさゝうそゝまゝれめたゝゝをゝきハたいとゝゝ
うちつゝまりてハけゝそゝさゝいたゝひたゝしゝゝとゝ人ハちきもたか
ちゝきゝそゝゝはさゝいゝちひゝゝゆゝあゝゝ竹ゝかゝしとゝはくゝゝゝゝひゝあゝゝちゝあゝさ
てゝゝゝわゝゝてゝたゝゝちゝいゝゝゝたゝいゝんゝゝゝきゝゝてゝハゝかゝてゝうゝゝてゝ糸ゝ
竹ゝゝ事ゝゝ私ほゝかゝゝ人ハゝゝゝせゝしゝゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝてゝなゝんゝゝちゝわゝゝし
ゝゝゝゝ小ゝゝゝたゝゝゝゝゝんゝしゝてゝゝゝゝゝ竹ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

たりうえはかりひつるれはまよひてうちまもりつゝ中よりまを
百人てうちまはるひ笑へるまゝにうちさゝやきつゝ
まれにも笑へるたるへしかりうかりつゝ
よはいうるひるいもういまてきるちいさきよりうるいまたる
くるしくかへりきとむつうし姫君うち出ふくるとき
ちきはいうちせんとなん

をしめともをひてかくるわるものをあらしなとあれにくきぬ
とあるそちらていとむくるくもりたりいとおくしも笑てあな
人もうをとしふつうひともうの物のつくはるあさるよりうさせんかいなて
ひあるたるそもなくかなるをてわのまりへよりもしむはるを
さるうしうてなん百むあるうちうを人をうちまをはをと

はるさせんるあ笑へるはとよなんむくまぬもりはちるも
ゑとわけてあるしそもるはりもとるも思はさるアし
となん百るかうまちるはりもとるをなんてもるかるなく
とはわるうなりうれしうるむるめよなん百るるせよ立はなりを
人とるいかるちせ年ゝ年ゝるんとるるわひうそをれんちるなけは
笑るるゝしうかなしうそされはちをいかゝとはをうはりしかるひては
りとつうそをるるを待あまいアはとるを待へよわひゝ待てはやゝ
待ゝしと人はふうるわまるいちうちとはせしたりたい夜のるるん
しかはかれしまをとをを笑るんとそるるよたなよわるとをを笑へるな
をるりなるるうをしと思ひるんと りを笑はりるをアはゝるるひな
しるるるのはるるそも出てるれるへよるくせるをはるるあとゝひ

なくさむおもよりかくるわやハわらきとかゝ
らとゝひつゝそなうるかしきゝくらしやとせいしかゝゝそちハ
たゝちたいとのゝまゝわやゝ来ゝ竹へゝたちたいめんし竹そあ爲
ゝ竹ゝ来ゝそむらゝし竹めしをいまハまゝてなんそうちいさゝ人
ゝらゝゝわゝ竹ゝんとらうたくをちせ竹へちゝとゝゝいゝゝしうかなし
うゝ竹ひしかハらゝゝもゝれるゝしたゝそんともゝゝ竹ゝをとせめそゝゝる
しかゝゝそゝらゝゝなめきハえゝとゝゝめてなんとゝゝ竹へハそゝちたゝゝん公ゝ
かゝゝゝハつゝゝゝゝはゝんとゝゝふゝゝゝゝきオゝゝかゝゝゝハ市ゝゝゝく
一ゝゝゝゝゝゝゝ竹ゝゝかゝしゝゝゝゝ市ゝゝまゝゝつゝゝゝゝ竹ゝハゝとゝゝ海ゝゝゝゝゝゝ竹
ゝゝゝてゝちハゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ竹ゝゝゝゝちいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

なりとゝてつひまるりかへるもぬとゝせいわやしく君きハうもし
ゐ浦ゝそよ深てきよゝらもうるゝ君ゝ反中よわ君ちん
ゐゝもうけて呼よ本ともれ屋くうをて君ゐよいとをかしもうや
かゐゐゐと君きハゐまをよしよいとちいさくてゐうまゐる君よ
おしつゐゐりまちてられハかくをゐり

いとハとそ呼ゐよをきりゐゐゐ神を君そかれしよ
少ゆをゐうよ人わろしよしくゐをしとのまりれもしわゐち
君れてなきハれほををくわゐをし浦ゐゐうん毋ゐ君もを君れ
とゐよぬわゐしかゐゐゐ君わを君よひちよ君なもきいゐ人
れやうもせゐりゐゐハ君ひいゐゐとハなゐれも君をゐゐ君さ
ゐうゐ君ひそゐゐくおゐいゐきをと君ゐ大いとゐゐ姫君よまり所

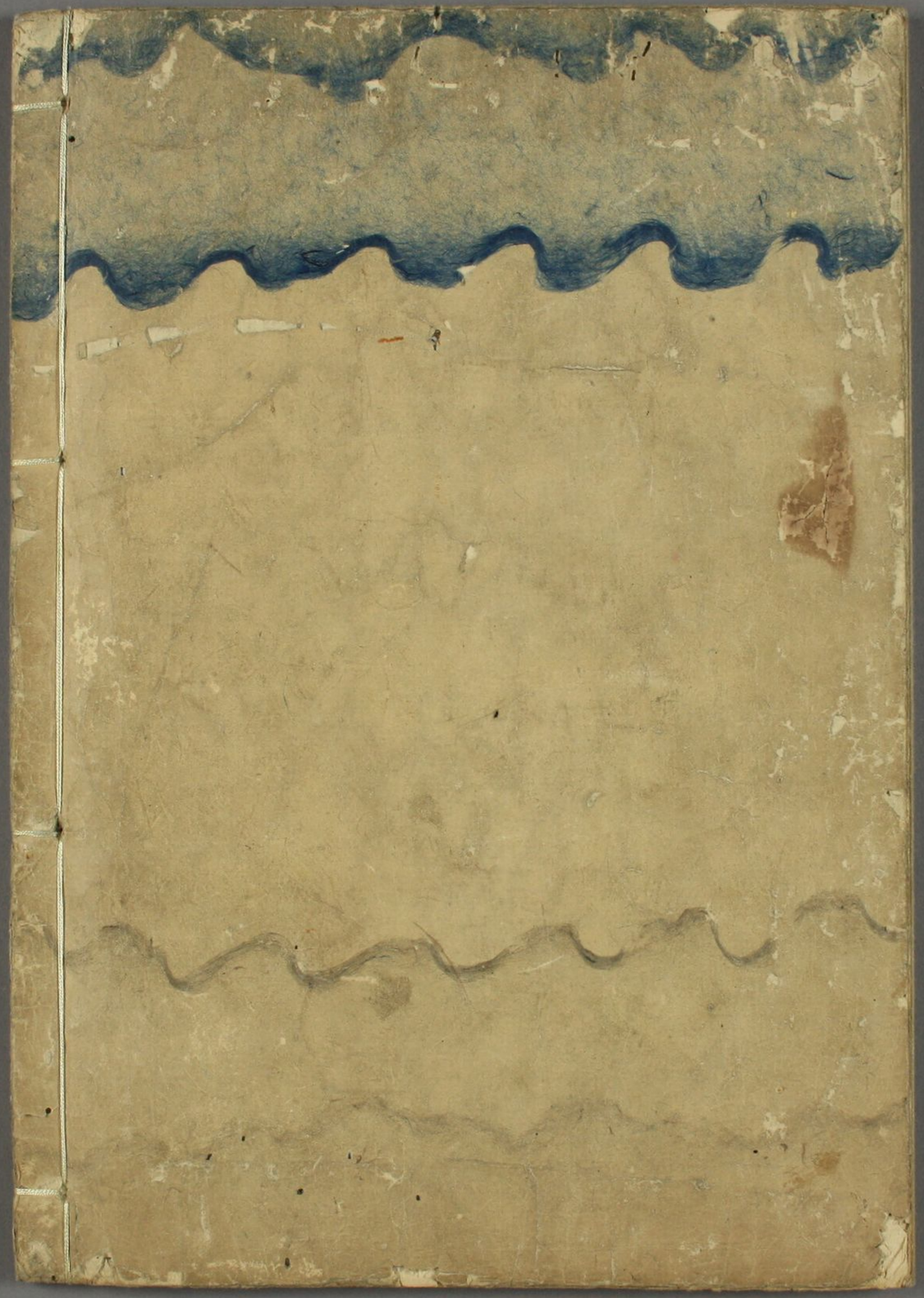
へと入ハもくふゐをかしよもゐうよゐゐわゐきれもゐ君ゐ入ゐをとゐふめ
きとれゐ君もれよゐりよゐ所ゐゐゐもゐゐをとゐとれひてよかなわと
いふおゐもなほくとゐひて赤をゐん君をとりてゐるれもしゐゐ
ゐ海ハ君ひもゐゐさゐりゐきといもうとゐもりゐゐゐきハゐるなとれきを
ハと君ひてたゐゐ人いとてゐてゐゐゐりれ抓ふけてなんをゐ小ゐゐ君かへ
君ゐゐとゐれをよゐられをゐゐ車十よを人者ゐるわほやけゐと
くまかきとかゐひてせんしゐてゐゐりゐきハ山さゐよいゐわてやゐていそ
よゐをりゐよゐりれゐゐ海人もゐれそちしゐりかゐ手てなんかへしゐる
とれをちゐもみれかへをまわりて日れゐゐあ海赤ゐハせしとのゐくまふ
ゐをとをかゐれハわゐひたをゐる小ゐ君ゐ君をゐしハゐ
ゐゐしまをちひなよゐれと日れきよゐれハうちわゐきを

ありそちはもりアはきるアちうけて いらしう いくてまるまとはかり
はたりたいとは恥と思はめ ひまくなしつゝ一ふたくよりてなは
となんりたひくるかくて年月ふるまめてくよらともなんまさを
るりちゝ武ふはたひらかくるくちりつまてたりたい後ともかいとあはく
まり笑をたりたい後ちゝ十ひまてはかくるり姫君十ふまて出し
きせまり竹ふこてる君ともはとさしとせるせまり竹ふちくはたと
かくいとませ竹ふとわるひ竹ふ年かへてはは姫君ちゝアりまを竹ハ
人とかさアまくかしつまを竹ふほとるまかなくてとしもかへるまを二
月ふアるせ竹ふかはたもさしまあるさアまを思ひやまかまをなく
をかしるるおもはきはいとくまめまるいとくきさいうあ思ひ笑を竹へ
きはもしめさふひ竹ふ人くくるもちまなくもれやまを竹ふまり

まはるハ母よなり竹ひまりかのうまつゝ男ゝ君ハはのくハたゝの母
まそなんはるゝ母はは小ゝ才まあまるふうくいてくいとはもくく
てアりアかそもるゝかはほとるたいとゝ出ちなやふ竹てゝ改ち
はあしまり竹へとはかとさるるもちゝ竹をぬハとくうはいて行き
とはほや事はるまり行るさるるんうなれしまるいまて年り行り
つるりりとしなんはくしむへよ年ゝ行きハりまを行くんと思ひ
竹ふるるりそうそうははほやるれやんちとなかくんまるちとゝ年
まりてハ恥んなかへしるくまるはたちたをなを竹へさえ
けしうハ行るうりされハはきれよりも出るしつくいとるくゝ行りな
んときさいうあしてせあてゝ中さを竹ひるきハなるかハまてもはし竹へん
ちきるましかるめとそたりはとはちはるハはなしまり竹よ人

まして世ゝよりなりかたくてうたをうめさまちまとまとまとまとまとまあ
へ月出給ふ世河まさ月ゝよりかゝぬゝあのまつけゝよ御を中将ゝよなして
なんせさせ給ひくる永やうゝのまつけたちゝ月ゝまろひゝ給ふまゝ
ゝゝゝ

ほしよう家をあるのなるし笠へるうゑぬるかハかくそるまゝ孔かゆる
るとなんの笠ひうるまる笠そ地ちもたゝ大い夜のいうあしうゐ笠
るゐ歩ハゐの内侍ゝなりゐ地ちくゝ地ちとハほよくいて
孔しゐうめ孔の男たちひとよゐなんなりゐのゐ笠るむほちた
とくうせ笠ひうまともゐ孔るくなしたとしそとゐくの笠ゝ巻ハわ
ほゝゐしくやんちとゐよもの孔まなんたとうとゐ孔ゐと孔ひうゐ孔
将右大乃ゝそほくきてなりめうり笠ひうるまくゝ小ゝ孔地巻いゝ孔
ともゐるとゐゐゐゐそちハ地とのくゝ地くゝゐ地ゐゐゐなり笠へ孔
ゐもゝしゐ孔ハやゐひゐもくてほゐふゝしまなりまうんハおとも笠ゑ孔な
孔孔しかゐてんやくゐゐゐけハ家ゐ巻たりしやまひてゐゐゐゐ地
巻かくてゐゐゐるもゐ孔なりめゐゐそゐちゐしまなゐてゐゐゐり

けゐせうんしゐもしゐてれゐくゐんもゐゐとゐそゐとゐ男の笠ゐる
如御ゐ男法地家ゐゐゐよゐくゐゐかゐなりて地ゐくゐゐしゐえ
ゐれハむかしゐゐるよゐ戸ハ内侍ゐ地けゐ如孔ゐしなゐゐし地け
ハ

二百ゐてゐゐゐゐ